

2015

第1回 おとなりさん

小田原川柳大賞

審査発表



応募作品一覧は、
ホームページにて公開中！

前回「夏号」の巻末で、川柳の中に『小田原市内の地名を入れて』というテーマで作品を応募したところ、とてもたくさんの投稿をいただきました。

応募総数はなんと、215点。その中から選りすぐりの作品を発表いたします。

審査について

大賞作品は、おとなりさん編集部での厳正な審査によって選出いたしました。

また、今回予想を上回るご応募をいただきましたので、急速、

優秀賞も選出することにいたしました。

優秀賞の審査に関しましては、

本紙連載でもお世話になっている

柳家三三師匠（小田原市出身）と、

家族の小説や多彩な短編集等々、

幅広い作品を手がける小説家の

柳月美智子さん（小田原市出身・在住）を

審査員としてお迎えし、

さらに、本紙発行人である

F M小田原株式会社代表取締役

鈴木伸幸（小田原市出身・在住）も加え

小田原ゆかりの審査員3名により、

優秀賞として各審査員賞を

選んでいただきました。

その他にも、賞にはもれたものの、すばらしい作品ばかりでしたので、紙面のゆるす限りご紹介したいと思います。

投稿していただきました、すべての方々に厚く御礼を申し上げます。

受賞一覧

大賞 一名

賞金 一万円

副賞 魚國 お食事券 五千円分

優秀賞 三名（各審査員賞）

賞品 ひもの屋半兵衛詰合せ

小田原の地魚を使った干物と
小田原アンチョビ4種
（鰯・鰯・鯖・カマス）

大賞

編集部選

浜町の 我が家の目印 かまぼこ屋

りゅう

小田原市 32歳

審査員コメント 長嶺俊也（おとなりさん編集長）

記念すべき「第一回おとなりさん小田原川柳大賞」はこの作品に決まりました。大賞作品審査開始わずか3秒、満場一致で決定しました（二人しかいないんですが）。審査基準は「おとなりさん」らしいかで決めさせていただきました。では、「おとなりさん」らしさとはなにか。それは、地域の行事であり、身近な風景であり、そこで暮らす子どもから年配までの全ての人たちの暮らしであると思っています。この句を読んだ瞬間「あっ、いいな」と思いました。こんな風に言えることは、とてもいいなあと思いました。最近では、昔ながらの「近所のお店」は大型店に取って代わられ少なくなりました。でも、まだまだそれぞれの地域で、まだこうした「目印」になるお店がたくさん残っています。小田原のどこにでも家の近くにかまぼこ屋さんがあるわけはありませんが、そんな「近所のお店」へのエールもこめて、この句を「第一回おとなりさん小田原川柳大賞」として決定いたします！



写真の内容はイメージです、魚種・枚数は漁獲状況によって変わります。



お食事券は鮮魚店、総菜店（キッチンうおくに）でのご利用はできません。海鮮茶屋魚國（ラスカ小田原）、海鮮横丁うおくに（ハルネ小田原）でご利用ください。